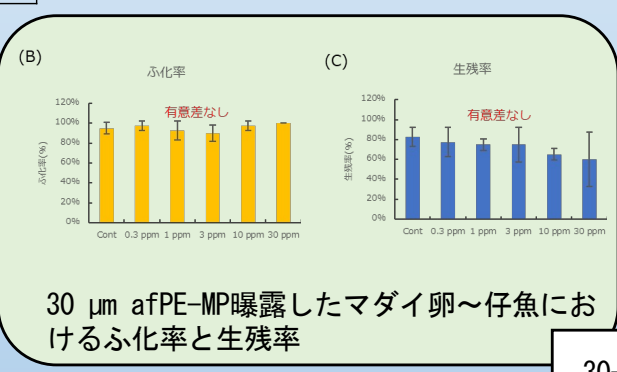
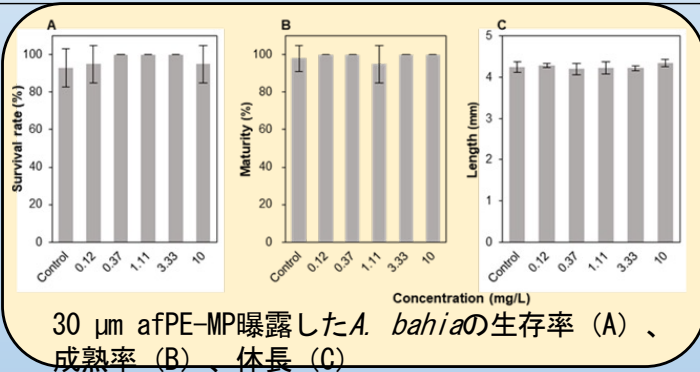


研究課題番号	【1-2301】
研究領域	統合領域
研究課題	「マイクロプラスチックの水及び底質経由の曝露による海洋生物への影響評価」
研究代表者（所属）	大嶋雄治（九州大学）
研究期間	2023年度～2025年度
研究キーワード	マイクロプラスチック、共通試料、水生生物、毒性評価、種の感受性分布

研究概要と進捗状況（中間の2024年度時点）



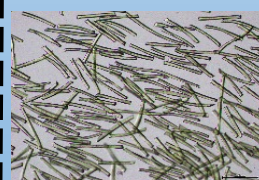
国立環境研究所
マイクロプラスチック共通試料の海産の藻類、甲殻類、底生生物に対する有害性評価

水産技術研究所
マイクロプラスチック共通試料の海産魚類、及び大型藻類等に対する有害性評価

30-µm afPE-MP (10 mg/L) 曝露でマダイ稚仔魚、マミチヨグ仔魚、海産大型緑藻類*U. aragoensis*、海産ラン藻*Cyanobium* sp. アミ*A. bahia*、ニホンドロソコエビで影響はない。

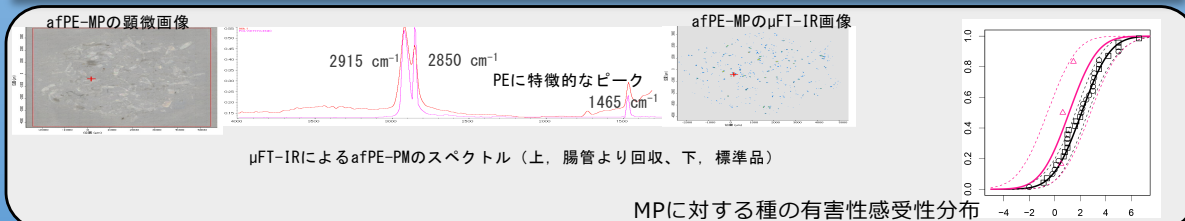


10, 30, 100-µm 劣化断片状MP (afPE-MP)



20, 50, 200-µm PES-MF

九州大学、土木研究所、産業総合研究所、海洋生物環境研究所
マイクロプラスチック共通試料の作製、海洋生物への有害性評価とその総括



断片状および繊維状MPの水生生物に対する毒性評価、定量、体内動態、SSD

環境政策等への貢献：本課題で導出される、共通MPの作成およびそれを用いた毒性試験法、および得られるMPの毒性データは、国際的に活用されることが期待され、環境政策への貢献は大きい。今後、本成果は環境省海洋プラスチックごみによる生物・生態系影響リスク評価検討委員会における検討資料として、さらに環境省のマイクロプラスチック規制基準値の検討において、本研究成果であるSSDモデルの試算結果の活用が期待される。第5回国連環境総会再開セッション（UNEA5.2）（2022年2月開催）では「プラスチック汚染を終わらせる：法的拘束力のある条約に向けて」が採択された。それに呼応して条約づくりのための政府間交渉委員会（INC）が設立され、2024年末までに最大限入手可能な科学的知見および優良事例の抽出や科学的情報等の提供メカニズム等の検討を行うとしている所に活用されると期待される。